

企業名： 参天製薬株式会社

レポート名： Santen Report 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

おおむね理解できた。参天製薬は眼科領域に特化した製薬会社で、長期ビジョンとして Santen 2030 というものを持っており、統合報告書のなかでその解説がなされている。Santen 2030 では、最終的な目標として「眼の疾患や不具合に起因する世界中の人々の社会的・経済的な機会損失を削減することを目指す。」と掲げており、そのために

- ①眼科医療のイノベーションと眼科医療エコシステムの発展加速
- ②より良い眼の状態に向けた重要性認識向上とアイケアの推進
- ③視覚障がいの有無に関わらず交じり合い・いきいきと共生する社会の実現

この3つを戦略として提示し、統合報告書ではこれらをさらに細かく分解して説明がなされていた。最終的な目標は、日本における医療用目薬でシェア1位を誇る参天製薬のものとして納得できるものだった。また、そこに至るための戦略も財務的な面や具体的な方法など様々な面から解説されていてわかりやすかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

おおむね理解できた。参天製薬は統合報告書のなかで自社の強みとして、

- ・目の特性を誰よりも理解している
- ・患者の使いやすさにこだわる
- ・世界トップクラスの生産量
- ・広く深い眼科専門性と患者視点
- ・高い顧客満足度
- ・各国・地域の眼科医療の発展への貢献
- ・世界 60 以上の国・地域へと展開
- ・眼科医とのネットワーク
- ・眼科グローバルカンパニーとしての存在感

これらを挙げている。これらの強みが、地域別の戦略や「アレジオン LX」開発ストーリーなどを通して詳しく説明されていた。きめ細やかにニーズを拾い上げて製品開発につながるところが参天製薬の強みなのだと理解した。もし今、参天製薬とその製品が消えてしまったら、国内の医療用目薬の約半分が消えてしまうことになるわけで、参天製薬の事業はそれだけ社会に大きな影響を与えているのだと感じた。統合報告書のなかで挙げられている強みのうち、「眼科医とのネットワーク」や「眼科グローバルカンパニーとしての存在感」は「世界トップクラスの生産量」という要素によるものであり、参天製薬の最大の強みは規模

の大きさだと思った。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

2021年時点で参天製薬はかなりのグローバル化を成し遂げていて、2025年までにさらなるグローバル化の深化と新規領域参入を達成することを目標としている。このうちグローバル化の深化については地域ごとに詳しく説明されていて、どの地域でも売上高の年平均成長率を上昇させることになっている。これを支える戦略として、製品の拡販と販売チャネルの開拓、強固なポートフォリオの構築などを挙げているが、どれも曖昧な印象だった。だが、人材の育成や環境の整備には力を入れていて、広く深い眼科専門性と患者視点という強みは持続性があると感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。参天製薬は Santen2030 の具体的活動の中で、社員のキャリア実現機会や成長機会、デジタルワークプレイスの提供を掲げている。また、ESG マテリアリティの一つとして価値創造を促進する企業風土の醸成を示していて、人的資本の向上に重きを置いていることが伝わってきた。参天製薬は企業風土の醸成について、

- ①ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの促進
- ②高付加価値で生産性の高い職場環境の構築
- ③人材の構築

これら3つを重点項目としていて、いずれについても具体的な実績と目標が述べられている。女性管理職比率や男性の育児休業の取得率などが説明されており、参天製薬の役員の構成などをみても、これらは着実に達成されるものだと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

統合報告書の目次の、Purpose, Strategy, Social&Environment, Governance, Data という区分けのしかたがわかりにくかった。どこに何が書いてあるのかを見つけるのに少し苦労した。80 ページ以上ある統合報告書を隅から隅まで読み込める人もなかなかいないだろうから、読む人が自分の得たい情報にすぐにたどりつけるように、もっとわかりやすい目次にする必要があると感じた。

また、他社の統合報告書では「自分の会社らしさは何か」や「自分の会社とは」などの説明に多くのページを割いていたのに対し、参天製薬の統合報告書は経営計画や ESG 関連の説明が主で、自社のアイデンティティについての説明は比較的手薄だと思った。参天製薬の目薬は世の中に浸透していてブランド力もあるので、もっと自社のアイデンティティについての説明に重点を置いてもいいのではないかと考えた。